

令和7年度着手

県 営 ^か ^ぶ ^と 鹿 伏 兎 地 区 緊 急 防 災 等 工 事 計 画 書
(緊 急 農 地 防 災 事 業)

愛 知 県

(目次)

(1/2)

第 1 章	目 的	1
第 2 章	地 域 及 び 地 積	1
第 1 節	地 域	1
第 2 節	地 積	1
第 3 章	現 況	2
第 1 節	気 象	2
1.	一般気象	2
2.	特殊気象	2
第 2 節	土 地 状 況	3
1.	地形、土壌及び浸食の程度	3
2.	土 地 分 類	4
3.	土地利用の状況	4
4.	土地所有の状況	5
第 3 節	水 利 状 況	5
1.	用 水 状 況	5
2.	排 水 状 況	5
3.	河 川 状 況	8
第 4 節	道 路 概 況	8
1.	道 路 概 況	8
2.	主要道路一覧表	8
第 5 節	地域農業の概況	9
1.	産業別就業人口	9
2.	経営耕地広狭別農業経営体数	9
3.	主要家畜頭数	10
4.	主要作物作付状況	11
5.	農業の動向	12
第 6 節	地域環境の概況	13

第 4 章	一 般 計 画	13
第 1 節	事業計画の要旨	13
1.	要 旨	13
2.	事業別面積	13
第 2 節	営農計画及び土地利用計画	14
1.	営農計画の概要	14
2.	土地利用区分	14
3.	作付け方式	14
4.	生 産 計 画	14
5.	労働改善計画	14
6.	級地別土地利用区分	14
7.	土地配分計画	14
第 3 節	用 水 計 画	14
第 4 節	排 水 計 画	15
1.	計画基準雨量	15
2.	計画排水方式	15
3.	計画排水系統	15
4.	計画排水量	15
5.	排 水 対 策	17
6.	湛 水 検 討	17
第 5 節	道 路 計 画	17
第 6 節	農用地造成計画	17
第 7 節	湛水調整計画	17
第 8 節	干 拓 計 画	17
第 9 節	農用地整備計画	17
第 10 節	老朽ため池改修計画	17

第 5 章	主 要 工 事 計 画	18
第 1 節	用 水 施 設	18
第 2 節	排 水 施 設	18
1.	排 水 水 門	18
2.	排 水 機	18
3.	排 水 路	18
4.	その他排水施設	18
第 3 節	道路及び索道	18
第 4 節	農用地造成	18
第 5 節	湛水調整施設	18
第 6 節	干 拓 施 設	18
第 7 節	農用地整備施設	18
第 8 節	老朽ため池改修施設	18
第 6 章	附 帯 工 事 計 画	19
第 7 章	工事の着手及び完了の予定時期	19
第 8 章	環境との調和への配慮	19
第 9 章	換地計画の概要	20
第 10 章	事業費の総額及び内訳	20
第 11 章	効 用	21
第 12 章	関 連 す る 事 業	22
第 13 章	現況・計画平面図	22
1.	現況平面図	
2.	計画平面図	
3.	土地利用計画図	
4.	主要構造図	

第 1 章 目 的

本地区は、愛知県の西南部に位置し、日光川河口地点より、上流3.0km間に位置する流域約44haの低平地に広がる水田地帯である。地区南側にはＪＲ線が走り、一方、道路は県道114号が西側に接している。さらに道路網の整備も進み都市との連携がますます高まり、都市近郊型近代農業の先進的役割を果たしつつある地域である。

しかし、近年では、地区内開発による流出量の増加、経年劣化および水路敷高の不陸等に起因する排水路の排水機能低下によって、排水能力に不足が生じている。その結果、農地および農業用施設等に湛水被害が顕在化している。

このため、本事業により排水路の排水能力向上を目的とした改修を行うことにより、豪雨時の湛水被害を未然に防止し、農業経営の安定を図るとともに、本地区の防災力の向上を図るものである。

第 2 章 地域及び地積

第 1 節 地 域 (第 1 表)

事 業 名	地 域
緊急農地防災事業	津島市

第 2 節 地 積 (令和 6 年 1 月現在) (第 2 表)

事 業 名	現況地目	田	畑	原 野	山 林	その他	計	備 考
	市町村名	(ha)	(ha)	(ha)	(ha)	(ha)	(ha)	
緊急農地防災事業	津島市	26.4	0.3	—	—	4.6	31.3	
	計	26.4	0.3	—	—	4.6	31.3	

第 3 章 現 況

第 1 節 気 象

1. 一般気象

(第 3 表－ 1)

観 測 所 名	蟹 江	かんがい期	非かんがい期	計又は平均	備 考
観 測 期 間	平成3年～令和2年	4～9月	10～3月		
平 均 気 温 (℃)		観測なし	観測なし	観測なし	
降 水 量	平 均 (mm)	1,028 mm	525 mm	1,553 mm	
	基 準 年 (mm)	-	-	-	
降 水 日 数	平 均 (日)	62 日	43 日	105 日	
	基 準 年 (日)	-	-	-	
根 雪 期 間		- 月 - 日 ～ - 月 - 日 - 日間			
無 霜 期 間		- 月 - 日 ～ - 月 - 日 - 日間			観測値があるのは名古屋地方気象台のみ
最 多 風 向		観測なし	最大風速 (風 向)	観測なし	

2. 特殊気象

(第 3 表－ 2)

観 測 所 名	第1位			第2位			第3位			第4位			第5位			備考
蟹江観測所																
観 測 期 間	数量	年月日	発生確率	数量	年月日	発生確率	数量	年月日	発生確率	数量	年月日	発生確率	数量	年月日	発生確率	
昭和51 年～ 令和5 年																
最 大 日 雨 量 (mm)	287.0	H12. 9. 11	1/189	241.5	H29. 10. 22	1/70	218.0	S51. 9. 12	1/40	182.0	S51. 9. 9	1/17	169.0	H3. 9. 19	1/12	
最 大 時 間 雨 量 (mm)	78.0	H12. 9. 11	1/25	77.5	H25. 9. 4	1/24	76.0	H4. 8. 11	1/22	69.0	S63. 9. 20	1/13	65.0	H18. 8. 22	1/10	
最 大 4 時 間 雨 量 (mm)	141.0	H12. 9. 11 16:00～	1/43	135.0	H24. 9. 30 15:00～	1/33	122.5	H29. 10. 22 21:00～	1/19	118.0	S51. 9. 8 20:00～	1/15	118.0	H28. 9. 20 14:00～	1/15	
最 大 連 続 雨 量 (mm)	614.0	S51. 9. 7 ～ S51. 9. 14	1/141	418.0	H29. 10. 13 ～ H29. 10. 25	1/27	365.0	H12. 9. 11 ～ H12. 9. 12	1/16	359.0	S57. 7. 24 ～ S57. 8. 3	1/15	331.0	H2. 9. 13 ～ H2. 9. 20	1/11	
最大連続干天日数 (日)	43	H11. 11. 25 ～ H12. 1. 6	1/628	39	H9. 10. 5 ～ H9. 11. 12	1/216	27	H7. 11. 28 ～ H7. 12. 24	1/11	26	S55. 10. 26 ～ S55. 11. 20	1/8	25	S53. 12. 24 ～ S54. 1. 17	1/7	5位と同じ連続干天日数 S62. 12. 10～S63. 1. 3 H9. 8. 12～H9. 9. 5

第2節 土地状況

1. 地形、土壌及び浸食の程度

(第4表-1-1)

事業名	地目	田						畑 ・ そ の 他							受益地標高(m)		備考	
	傾斜区分	1/1000 以下	1/1000 ～ 1/100	1/100 ～ 1/20	1/20 ～ 1/11.5	1/11.5 以上	計	3° 以下	3° ～ 8°	8° ～15°			15° ～ 20°	20° 以上	計	最高		最低
										8° ～10°	10° ～15°	小計						
緊急農地防災事業	面積(ha)	26.4	-	-	-	-	26.4	0.3	-	-	-	-	-	-	0.3	-2.37	-2.90	
	比率(%)	100.0	-	-	-	-	100.0	100.0	-	-	-	-	-	-	100.0			

(第4表-1-2)

土壌統(区)名	項目	土壌統(区)区分一覧表										面積(ha)			備考
		土壌断面									堆積様式	母材	事業名		
		色	腐植	礫層	酸化沈殿物	土性			泥炭層 黒泥層 及び グライ層	防 緊 急 事 業 地			－	計	
						表土	下層土								
						一層	二層	三層							
荻谷統	青灰色	なし	なし	糸根状、管状含～ 富	粘質	粘質～ 強粘質		作土直下から グライ層	水積	非固結 水成岩	26.4	－	26.4	水田	
寺津統	青灰色	なし	なし	糸根状、管状有～ 含	壤状	壤質～ 粘質		作土直下から グライ層	水積	非固結 水成岩					
計	－	－	－	－	－	－	－	－	－	－	26.4	－	26.4		

2. 土地分類 該当なし

3. 土地利用の状況

(令和 6 年 1 月現在)

(第 4 表－ 3)

事業名	土地利用別 市町村名	耕 地						原 野 (ha)	山 林 (ha)	採 草 放 牧 地 (ha)	そ の 他 (ha)	計 (ha)	備考
		水 田 (ha)	普 通 畑 (ha)	牧 草 地 (ha)	果 樹 園 (ha)	茶 園 (ha)	そ の 他 の 樹 園 地 (ha)						
防緊急事農業地	津島市	26.4	0.3	－	－	－	－	－	－	－	4.6	31.3	
合 計		26.4	0.3	－	－	－	－	－	－	－	4.6	31.3	

4. 土地所有の状況

(令和 6 年 1 月現在)

(第4表－4)

事業名	所有別 区分	個人有地等	国 有 地	県 有	市 有 地	計	備 考
緊急農地防災事業	面 積 (ha)	26.7		4.6		31.3	
	受 益 者 数 (人)	－				－	
	筆 数 (筆)	－				－	
	権 利 関 係	－				－	
	備 考 (関係戸数)	－				－	

第3節 水利状況

1. 用水状況 該当無し

2. 排水状況

本地区の排水は、地区南側を西から東へ流下し、日光川右岸幹線水路へ排水されている。

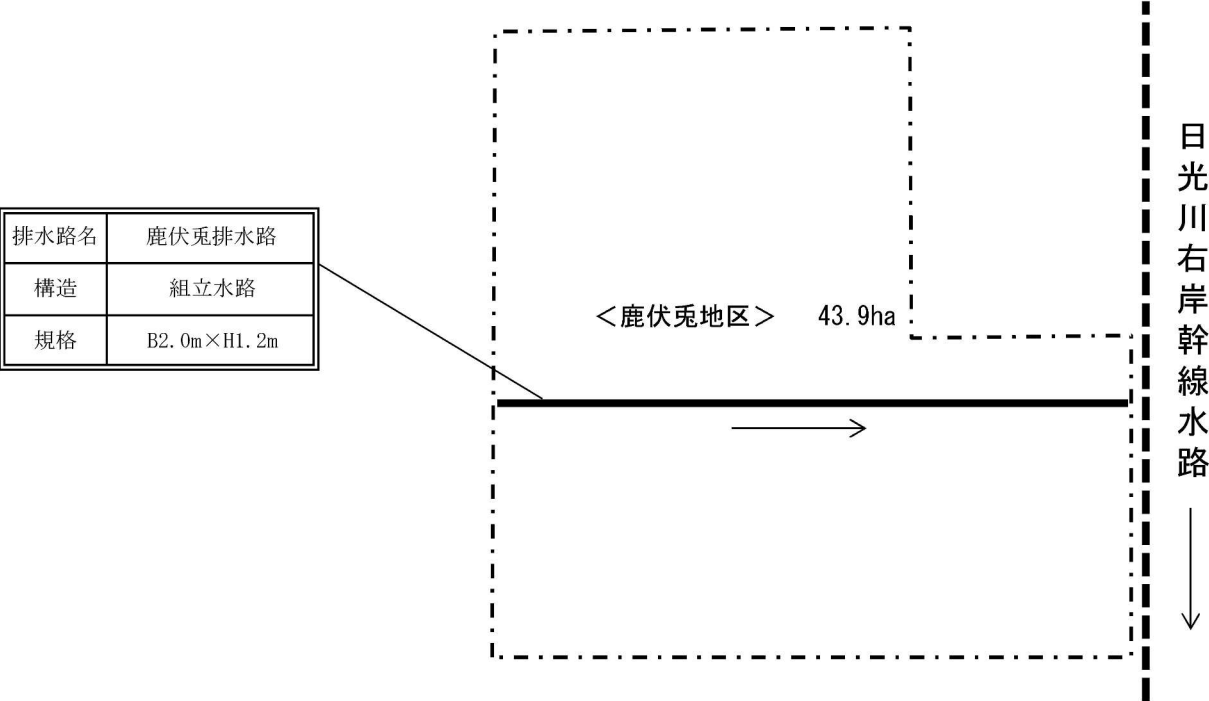
地区内の排水路は、整備後59年が経過した組立水路で整備されているが、近年では、地区内開発による流出量の増加、経年劣化および水路敷高の不陸等に起因する排水路の排水機能低下によって、排水能力に不足が生じている。

このため、本事業により排水路の排水能力向上を目的とした改修を行うことにより、豪雨時の湛水被害を未然に防止し、農業経営の安定を図るとともに、本地区の防災力の向上を図るものである。

(1) 排水系統

次頁、排水系統図のとおり

現況排水系統図



凡 例	
地区界(全体)	
現況水路	
他事業又は既設利用	

(2) 排水施設

(ア) 排水方法一覧表

(第5表-4)

事業名	施設名		100 ha 以上		99 ～ 1 ha		1 ha 未満		計		排水慣行 (m ³ /s)	現況排水能力 (m ³ /s)	備 考
			箇所	ha	箇所	ha	箇所	ha	箇所	ha			
緊急農地防災事業	自然	排水路	—	—	1	43.9	—	—	1	43.9	—	0.48	
		水門	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	
	機械	排水機	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	
		水門及び排水機	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	
		排水路及び排水機	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	
	計		—	—	1	43.9	—	—	1	43.9	—	0.48	
	合 計		—	—	1	43.9	—	—	1	43.9	—	0.48	

(イ) 改修を要する施設の一覧表

(第5表-5)

事業名	項 目		施 設 名 又 是 簡 所 数	受益面積 (ha)	構 造	規 模	新 設 年 又 是 更 新 年	改修を必要とする理由	備 考
	施 設 名								
緊急農地防災事業	自然	排 水 路	鹿伏兎排水路	31.3	組立水路	B2.0m×H1.2m	S40	地区内開発による流出量の増加及び供用年数経過による排水路の機能低下	
		水 門	—	—	—	—	—	—	
	機械	排水機	—	—	—	—	—	—	
		水門及び排水機	—	—	—	—	—	—	
		排水路及び排水機	—	—	—	—	—	—	
	計		—	31.3	—	—	—	—	
	合 計		—	31.3	—	—	—	—	

(3) 排水に関する被害状況

(第5表-6)

事業名	項 目 施設名	排水面積 (ha)	降水量 (mm/3日)	湛 水 状 況				乾 湿 状 況 (ha)						平均減産量(t)		備考
				湛水深 (cm)	湛水時間 (hr)	湛水面積 (ha)	湛水量 (千m ³)	田		畑		そ の 他		作物名	減産量 (t)	
	乾							湿	乾	湿	乾	湿				
防緊 災急 事農 業地	鹿伏兎排水路	-	341	53	49	31.3	98.8	-	26.4	-	0.3	-	4.6	水稲 だいこん にんじん	75.0	1/20確率

3. 河川状況

(1) 河川状況 該当なし

(2) 洪水に関する被害状況 該当なし

第4節 道路概況

1. 道路概況

本地区の主要道路は、地区の西側に県道114号が接しており、地区内道路はこれらに接続している。
地区内道路は概ね市道認定されており、アスファルト舗装がされている。

2. 主要道路一覧表 該当なし

第5節 地域農業の概況

1. 産業別就業人口

(第7表-1)

項目 市町村名	総数 (人)	農業 (人)	林業 (人)	漁業 (人)	鉱業 (人)	建設業 (人)	製造業 (人)	電気ガス 熱供給 水道業 (人)	運輸 通信業 (人)	卸売 小売業 飲食店 (人)	金融 保険業 (人)	不動産業 (人)	サービス 業 (人)	公務 (人)	その他 (人)	備考
津島市	29,931	521	1	6	2	2,637	6,089	114	2,702	5,175	487	496	10,330	705	666	
比率 (%)	100.0	1.7	0.0	0.0	0.0	8.8	20.4	0.4	9.0	17.3	1.6	1.7	34.5	2.4	2.2	

出典：令和2年国勢調査

2. 経営耕地広狭別農業経営体数

(第7表-2)

市町村名	農 業 經 營 體 數 (經營體)	經營耕地広狭別農業經營體數（經營體）										1 經營體当たり平均農用地面積（ha）						備 考
		0.3h a未 滿	0.3 ～ 0.5 ha	0.5 ～ 1.0 ha	1.0 ～ 1.5 ha	1.5 ～ 2.0 ha	2.0 ～ 3.0 ha	3.0 ～ 5.0 ha	5.0 ～ 10.0 ha	10.0 ～ 20.0 ha	20.0 ha 以上	田	畑	樹 園 地	小 計	草 地	計	
津島市	223	2	43	113	40	12	4	1	1	－	7	2.5	0.2	0.2	2.9	－	2.9	
比率(%)	100.0	0.9	19.3	50.7	18.0	5.4	1.8	0.4	0.4	－	3.1	86.2	6.9	6.9	100.0	－	100.0	

出典：2020年農林業センサス

3. 主要家畜頭数

(第7表-3)

市町村名 項目	主 要 家 畜								備考
	乳 用 牛		肉 用 牛		豚		家きん		
	数量 (頭)	経営体数 (経営体)	数量 (頭)	経営体数 (経営体)	数量 (頭)	経営体数 (経営体)	羽量 (100羽)	経営体数 (経営体)	
津島市	—	—	—	—	—	—	X	1	「X」は秘密保護上統計 数値を公表しないもの。 「-」は調査は行なった が事実のないもの。
100経営体当たり数量 (頭、100羽)	—		—		—		X		
飼養経営体数割合 (%)									

出典：2020年農林業センサス

—

4. 主要作物作付状況

(第7表－4)

市 町 村 名	津島市	作付割合 (%)	備 考
総耕地面積 (ha)	554		
区 分 作物名	作付面積 (ha)		
水稲	447	93	作付面積は、経営耕地面積のうち販売目的作付け(栽培)した作物の種別作付(栽培)面積である。「-」は、事実のないものの。 「X」は秘密保護上統計数値を公表しないもの。
麦類	14	3	
雑穀	0	0	
いも類	0	0	
豆類	1	0	
工芸作物	X	-	
野菜類	16	3	
果樹類	3	1	
花き類・花木	X	-	
その他作物	X	-	
計	481	100	

出典：2020年農林業センサス

5. 農業の動向

(第7表－5)

項目 区分	農 家			土 地			主 要 作 物			主 要 家 畜						地域指定等	備考
		B	A		B	A	作 物 名	B	A	家 畜 名	B	A					
変化の状況 （C年を100とする指数）	農業経営体数	63	36	耕地	89	78	水 稻	87	85	乳用牛	—	—				農振整備計画 昭和45年12月指定 昭和47年4月承認	A：2020年 B：2015年 C：2010年 X：秘密保護上統計数値を公表しないもの。 －：事実のないもの。
	個人経営体数	64	36	田	90	82	麦類	X	X	肉牛	—	—					
	団体経営体数 （法人）	160	100	畑	77	50	野菜類	X	70	豚	—	—					
	団体経営体数 （非法人）	—	17	樹園地	57	43	花き類 ・花木	X	X	採卵鶏	X	X					
				牧草地	—	—											
変化の理由	全体的に経営体数は減少傾向にある。経営体数の減少は、高齢化の進行及び後継者数の減少によるものである。			農業経営体数の減少に全ての地目面積もゆるやかな減少傾向にある。全ての地目面積が減少しており、宅地等他地目への転用によるものである。			農業経営体数および地目面積の減少により、水稲および野菜類もゆるやかな減少傾向にある。麦類および花き類・花木は統計数値が公表されていないため、動向の把握が困難である。			統計数値が公表されていないため、動向の把握が困難である。							

注) A：現在(最近時点調査の農林業センサス)

2020年(R02)

B：Aの直前に行われた農林業センサス

2015年(H27)

第6節 地域環境の概況

本地区における環境への配慮項目は以下のとおりである。

① 特に配慮すべき生物環境

本地区は環境配慮区域にあり、周辺農地・水路にはドジョウ、ミナメダカ、フナ属、モツゴなどの水生生物、その他にナゴヤダルマガエル、スジエビ属などが確認されている。このため、本工事の計画及び施工時には、周辺の魚、その他生物への影響が極力少なくなるように計画・工事を行う。

② 特に配慮すべき生物以外のもの（景観・文化財他）

水田や畑などの田園風景、遊水池や排水路、河川などの水辺空間

第4章 一般計画

第1節 事業計画の要旨

1. 要 旨

本地区は、近年における地区内開発による流出量の増加、経年劣化および水路敷高の不陸等に起因する排水路の排水機能低下によって、排水能力に不足が生じ、その結果、農地および農業用施設等に湛水被害が顕在化している。

このため、本事業により、既存の組立水路をU形水路に改修することで、排水機能の向上を図り、豪雨時の湛水被害を未然に防止し、農業経営の安定を図るとともに、本地区の防災力の向上を図るものである。

2. 事業別面積

(第8表)

事業名 土地 利用区分 事業目的	緊急農地防災事業						－						計 (ha)	備 考
	水 田 (ha)	普 通 畑 (ha)	牧 草 地 (ha)	果 樹 園 (ha)	そ の 他 (ha)	小 計 (ha)	水 田 (ha)	普 通 畑 (ha)	牧 草 地 (ha)	果 樹 園 (ha)	そ の 他 (ha)	小 計 (ha)		
湛水被害防止	26.4	0.3	－	－	4.6	31.3	－	－	－	－	－	－	31.3	

第2節 営農計画及び土地利用計画

1. 営農計画の概要

湛水被害を防止し、農業経営の安定を期す。

2. 土地利用区分

(第9表-1)

事業名	土地利用区分	水田 (ha)	普通畑 (ha)	牧草地 (ha)	果樹園 (ha)	茶園 (ha)	その他 (ha)	小計 (ha)	原野 (ha)	山林 (ha)	その他 (ha)	計 (ha)	備考
	区分												
緊急農地防災事業	現況・計画	26.4	0.3	—	—	—	4.6	31.3	—	—	—	31.3	

3. 作付方式 該当なし

4. 生産計画 該当なし

5. 労働改善計画 該当なし

6. 級地別土地利用区分 該当なし

7. 土地配分計画 該当なし

第3節 用水計画 該当なし

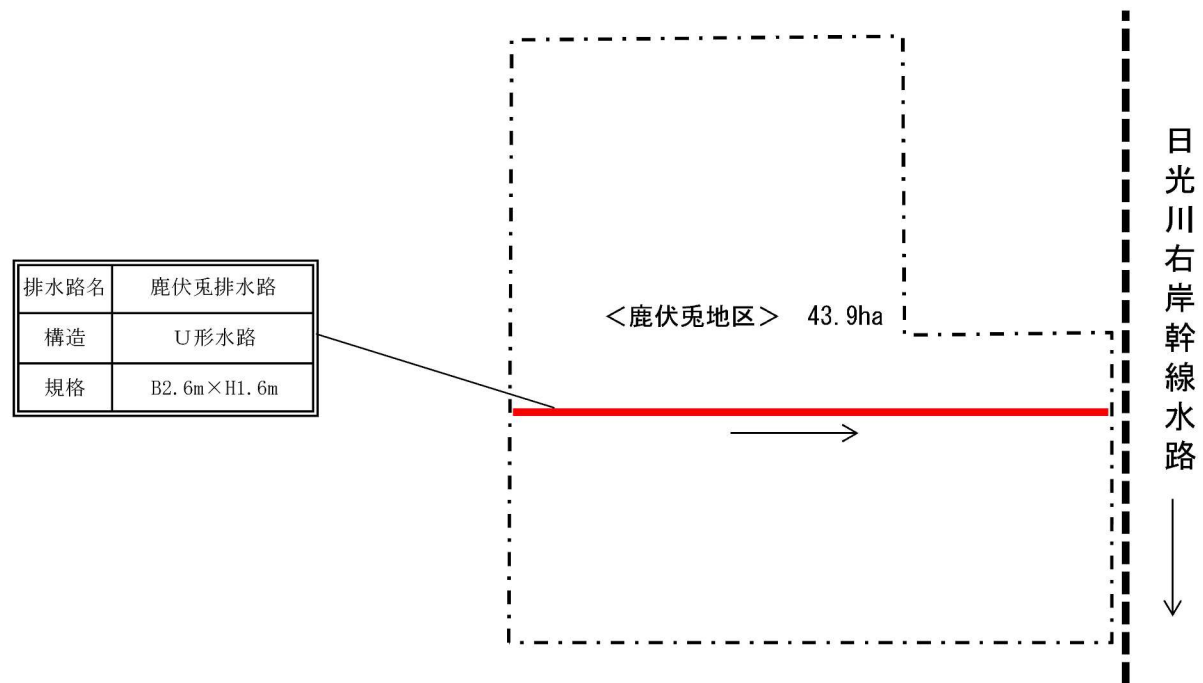
第4節 排水計画

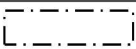
1. 計画基準雨量 341mm/3日 (1/20確率)
2. 計画排水方式 排水方法…自然排水
許容湛水…湛水深30cm以上の湛水時間が24時間以内
3. 計画排水系統 次頁、排水系統図参照
4. 計画排水量

(第11表－1)

項 目 排水系統名	受 益 面 積 (ha)		流 域 面 積 (km ²)		基準 雨量	降 雨 に よ る 直接単位流出量 (m ³ /s/km ²)		基 底 流 出 量 (m ³ /s/km ²)		全 排 水 量 (m ³ /s)			単 位 排 水 量 (m ³ /s/km ²)		備 考
	事 業 名									山 地	平 地				
	緊急農地防災事業	計	山 地	平 地	(mm/3日)	山 地	平 地	山 地	平 地		自然排水	機械排水	山 地	平 地	
日光川	31.3	31.3	—	0.44	341.0	—	3.45	—	—	—	1.52	—	—	3.45	

計画排水系統図



凡 例	
地区界(全体)	
計画水路	
他事業又は既設利用	

5. 排水対策

(1) 排水水門 該当なし

(2) 排水機 該当なし

(3) 排水路

(第11表－4)

項目 名称	流域面積 (km ²)	受益面積(ha)		計画排水量 (m ³ /s)	延長(km)	構造	排水本川			備 考
		事業名					名称	計画洪水量 (m ³ /s)	計画洪水位 (m)	
		緊急農地防災事業	計							
鹿伏兎排水路	0.44	31.3	31.3	1.52	0.87	U形水路 B2.6m×H1.6m	二級河川日光川	550	1.50	

(4) その他 該当なし

6. 湛水検討

	基準田面標高 (m)	許容湛水深 (m)	許容湛水深以上 湛水時間 (hr)	最大湛水深 (m)	最大湛水面積 (ha)	備 考
現況1/20確率	-2.90	0.30	49	0.53	31.3	
計画1/20確率	-2.90	0.30	24	0.43	29.0	

第5節	道路計画	該当なし
第6節	農用地造成計画	該当なし
第7節	洪水調整計画	該当なし
第8節	干拓計画	該当なし
第9節	農用地整備計画	該当なし
第10節	老朽ため池改修計画	該当なし

第 5 章 主要工事計画

第 1 節 用水施設 該当なし

第 2 節 排水施設

1. 排水水門 該当なし

2. 排水機 該当なし

3. 排水路

(第18表－ 3)

項目 名称	受益面積 (ha)		排水量 (m ³ /s)	延長 (km)			構造	勾配	主要構造物	備 考
	事業名			開きよ	トンネル その他	計				
	緊急農地防災事業	計								
鹿伏兎排水路	31.3	31.3	1.52	0.87	—	0.87	U形水路 B2.6m×H1.6m	1/10,000	U形水路	

4. その他排水施設 該当なし

第 3 節 道路及び索道 該当なし

第 4 節 農用地造成 該当なし

第 5 節 洪水調整施設 該当なし

第 6 節 干拓施設 該当なし

第 7 節 農用地整備施設 該当なし

第 8 節 老朽ため池改修施設 該当なし

第 6 章 附帯工事計画

用地買収及び補償費

- (1) 用地買収 該当なし
- (2) 補償費 電柱移設 ----- 1本
地下埋設管付替 --- 11箇所

第 7 章 工事の着手及び完了の予定時期

1. 工 期

- 着 手 令和 7 年度
- 完了予定 令和 12 年度（予定）

2. 工事の年度割合予定

年 度	令和7年度	令和8年度	令和9年度	令和10年度	令和11年度	令和12年度	備考
事業名							
緊急農地防災事業							

第 8 章 環境との調和への配慮

① 配慮の対象

令和4年8月環境調査を実施した結果、排水路および周辺農地にはドジョウ、ミナミメダカの貴重生物のほか、モツゴ、ヨシノボリ属等の魚類が確認された。これら魚類を保全の対象とする。

② 配慮の考え方

工事区域内に配慮すべき生物が入り込んだ場合は、捕獲し影響のない区域へ移動させる。
濁水・土砂流出の防止を図り、水生生物の生息環境に悪影響を及ぼさないよう配慮する。

第 9 章 換地計画の概要

該当なし

第 10 章 事業費の総額及び内訳

(第26表)

事業名		緊急農地防災事業	備 考
区 分	事業費 ※1)	1,018,200 千円	
	事務的経費 ※2)	156,300 千円	
	計	1,174,500 千円	
	関連事業	—	
	—	—	
	—	—	

令和6年度単価。消費税については10%にて算定(但し、物価変動により将来変動することがある。)

※1) 事業費とは土地改良事業に要する費用のうち、事務的経費を差し引いた費用。

※2) 事務的経費とは愛知県緊急農地防災事業実施要綱により定められた事務費及び工事雑費。

第 11 章 効 用

(第27表)

事業名	区 分	年 総 効 果 (便 益) 額 (千円)	年 総 増 加 農 業 所 得 額 (千円)	備 考
	効果項目			
緊急農地防災事業	作物生産効果	14,649	14,646	排水路の改修による作物生産の被害防止
	維持管理費節減効果	△ 7,614	303	排水路の改修による施設の維持管理費の増減
	災害防止効果 (農業関係資産)	54,811	39,742	排水路の改修による農業施設の被害防止
	災害防止効果 (一般資産)	208,691	—	排水路の改修による一般資産の被害防止
	災害防止効果 (公共資産)	—	—	排水路の改修による公共資産の被害防止
	国産農産物安定供給効果	3,025	—	排水路の改修による国産農産物の安定供給に対する被害防止
	関連効果	—	—	
	計	273,562	54,691	令和6年度単価

(参考)

① 当 該 事 業 費 :	916,333 千円
② 関 連 事 業 費 :	681,754 千円
③ 総 費 用 (現 在 価 値 化) :	1,598,087 千円
④ 年 償 還 額 :	— 千円
④' う ち 機 能 向 上 分	— 千円
⑤ 年 総 効 果 (便 益) 額 :	273,562 千円
⑥ 現 況 年 総 農 業 所 得 額 :	7,878 千円
⑦ 年 増 加 農 業 所 得 額 :	54,691 千円
⑧ 総 便 益 額 (現 在 価 値 化) :	5,503,940 千円
評 価 期 間 :	46 年
割 引 率 :	0.04
総 費 用 総 便 益 比 = (⑧ ÷ ③)	3.44 > 1.0
総 所 得 償 還 率 = (④ ÷ ⑥)	— ≤ 0.2
増 加 所 得 償 還 率 = (④' ÷ ⑦)	— ≤ 0.4

第 12 章 関連する事業 該当なし

第 13 章 現況・計画平面図

- | | |
|------------|--------------------|
| 1. 現況平面図 | ・・・・・・・・・・次頁添付のとおり |
| 2. 計画平面図 | ・・・・・・・・・・次頁添付のとおり |
| 3. 土地利用計画図 | ・・・・・・・・・・次頁添付のとおり |
| 4. 主要構造図 | ・・・・・・・・・・次頁添付のとおり |